

令和4年度
「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
実施報告書

令和5年3月
北海道教育委員会

はじめに

平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組の重要性が高まっております。

こうした中、北海道教育委員会では、令和 2 年度から文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、教育部局や福祉部局の垣根を越えて、大学等の高等教育機関や医療法人、社会福祉法人、NPO 団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域連携コンソーシアム」形成のモデルを構築する事業に着手してまいりました。

今年度は、過去 2 年間のコンソーシアム会議における御意見や情報共有・実践交流の場として開催したコンファレンスでの議論を通して浮かび上がってきた成果や課題も踏まえて、「障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援」「障害者の学びを支援する人材の育成」「障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討」など、大きく 9 つの取組に分類し、コンソーシアムの構成団体等からの協力の下、推進してまいりました。

本報告書は、それらの取組の集大成として関係資料をまとめるなどしたものであり、障害者の生涯学習の推進に関わる方々と成果や課題を共有し、今後の全道そして全国的な障害者の学びを支援する際の参考にしていただくことを目的として作成いたしましたので、是非、関係する皆様の参考にしていただければ幸いです。

結びになりますが、本事業の実施に対して御協力、御尽力いただきました皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも、北海道が取り組む事業に対する御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

北海道教育委員会

目 次

1	事業概要	…… P.1
2	具体的な取組	
	(1) 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成	…… P.5
	(2) 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援	…… P.9
	(3) 学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討	…… P.25
	(4) 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施	…… P.31
	(5) 障害者の学びを支援する人材の育成	…… P.35
	(6) 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討	…… P.41
	(7) 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築	…… P.67
	(8) 読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施	…… P.81
	(9) 障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施	…… P.85
3	成果と課題	…… P.101

1 事業概要

1 事業の趣旨

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の実施体制や連携体制の構築は大変重要であることから、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体などの外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、道内で取組を推進する多様な関係者との連携の場として、障害当事者や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する協議会を設置し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組みについて検討する。

また、コンソーシアムの構成団体等がもつネットワークを生かし、広域な北海道の市町村をつなぎ、障害当事者からの参画をより一層得るとともに、障害者の生涯学習に関する情報の収集・発信の充実に努めるなど、障害者の生涯学習の支援体制の構築を推進する。

さらに、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることができる研究協議会を道内178市町村で実施することにより、本事業終了後も見据えた取組を展開する。

2 令和2年度と令和3年度 of 取組

(1) 初年度（令和2年度）の取組

本コンソーシアム事業においては、北海道教育委員会が事務局となり、大学等の高等教育機関、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等の関係機関から幅広く参画を得て取組を推進してきた。

令和2年度については、地域連携コンソーシアムを形成して、構成団体が参画する会議において障害者の生涯学習についての現状と課題を共有するとともに、道内で実施される先進事例を交流するコンファレンスを開催することで、2年目以降の本事業の方向性を確認した。また、長年、障害者の生涯学習に取り組む医療法人稲生会によるモデルプログラムの成果と課題の共有も図った。

(2) 2年目（令和3年度）の取組

令和3年度については、本事業で培ったノウハウを広く普及し、地域の実情に即した取組を行うキーマンとなる人材の養成が一層必要になるとの認識から、178市町村の社会教育行政担当職員等を対象とした研修会に取り組むとともに、文部科学省から受託した社会教育主事講習においても、障害者の生涯学習をテーマとした講座を開設した。また、北広島市教育委員会においては市町村単位の地域連携コンソーシアムも構築し、巨大アート制作等に取り組んだ。

3 3年目（令和4年度）で実施する9つの具体的な取組

本事業の3年目となる令和4年度には、過去2年間の取組を踏まえて、次の9項目の事業に重点的に取り組み、そこで得られた成果や課題について、コンソーシアム会議やコンファレンスの場で、障害当事者も含めた多様な関係者と共有することで、本事業の取組の普及に努めた。

- ① 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ② 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③ 学校教育法第 105 条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
- ④ 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤ 障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥ 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦ 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧ 読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
- ⑨ 障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施

4 取組の推移

	取 組 内 容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
コンソーシアム	関係機関の連携	○	○	○
	コンファレンスの開催	○	○	○
	指導者養成		○	○
モデルプログラム	稲生会によるプログラム開発	○	○	○
	北広島市によるプログラム開発		○	○
	ネイパルによるプログラム開発		△ 検討	○
	特別支援学校、高等教育機関によるプログラム開発		△ 検討	○
調査研究	学習プログラム・実施体制等	△ 検討	○	○
	障害者の学びの実態把握	○	○	○
	障害者の学びに関する情報収集・提供のためのシステム構築	△ 検討	○	○

令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業名	障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業
------------	-----------------------

提案者名	北海道教育委員会
-------------	----------

事業の趣旨・目的

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の果たす役割は大変重要であることから、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体などの外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、令和2年度より引き続き、多様な関係者との連携の場として、障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する協議会を設置し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設ける。

その際、本事業で培ってきた各団体等とのネットワークと広域な北海道の市町村をつなぎ、特に障害当事者の方の参画をより一層進めるとともに、障害者の生涯学習に関する情報の収集・発信の充実に取り組むなど、過去2年間の取組の成果と課題を活かし、これまでの取組を発展継承させる。

また、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることができる研究協議会を道内全市町村で実施することにより、本事業の趣旨の普及啓発を推進する。

事業については、次の9項目に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
- ④特別支援学開校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施
- ⑨読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施

構成機関

- 構成員（予定）及び役割
- ①北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課【社会教育・生涯学習】→事務局を担う、道内市町村教育委員会との連絡調整等
 - ②北海道教育庁学校教育局特別支援教育課【特別支援教育】→特別支援学校との連絡調整等
 - ③北海道保健福祉部【保健福祉行政】→福祉との連絡調整、事業の実施等
 - ④医療法人稲生会【医療法人】→障害者対象のモデルプログラムの実施
 - ⑤社会福祉法人ゆうゆう【社会福祉法人】→社会福祉法人としてのモデルプログラムの実施、社会福祉法人等との連絡調整等
 - ⑥DPI北海道ブロック会議【障害当事者】→障害当事者としてのモデルプログラム実施への協力、連絡調整等
 - ⑦北海道大学【社会教育論】→社会教育・生涯学習関係の学識者による社会教育研究分野からの事業への助言等
 - ⑧北海道医療大学【医療福祉論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施、福祉系大学等との連絡調整等
 - ⑨藤女子大学【特別支援教育論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施等
 - ⑩いっしょにね！文化祭実行委員会【文化団体】→稲生会と合わせた障害者対象のモデルプログラムの実施、関係団体等との連絡調整等
 - ⑪道立特別支援学校【特別支援学校】→特別支援学校としてのモデルプログラムの実施
 - ⑫道立生涯学習推進センター【社会教育施設】→公民館など社会教育施設等におけるモデルプログラムの開発、調査研究
 - ⑬北海道教育大学【大学と地域との連携】→公開講座の実施、学生ボランティアの養成、研修会の実施
 - ⑭北海道社会福祉協議会【社会福祉】→道内各市町村の社会福祉協議会との連絡調整、各種事業への協力 など
 - ⑮北広島市【市町村】→市町村レベルの地域コンソーシアムモデルの形成
 - ⑯岩見沢市【市町村】→「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業実施予定

令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業実施体制

- 関係機関の役割
- ・地方公共団体→事務局としての全体調整、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定・推進、教育部局と知事部局の連携による情報集約と提供、コンファレンスの開催による普及・啓発等
 - ・社会教育施設→調査研究機能、学習相談機能の活用
 - ・高等教育機関→講座の企画・助言、講座の開設（オープンカレッジ等）、履修証明プログラムの作成に向けた具体的な検討、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成、遠隔学習等
 - ・医療法人・社会福祉法人・企業等→障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力等
 - ・地域民間団体・特別支援学校→講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者のニーズの把握と共有等
 - ・連携市町村→市町村版地域コンソーシアムの検討、「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業の実施
 - ・コーディネーターについては、北海道教育委員会社会教育主事が役割を担う。

コンソーシアム体制イメージ

	情報収集と提供	コンファレンス	モデルプログラム	調査・研究
医療法人・企業等	○	○	○	
高等教育機関	○	○	○	
地域民間団体 ・特別支援学校	○	○	○	
北海道（保健福祉部）	○	○	○	
市町村	○	○	○	
北海道教育委員会 （社会教育課）	○	○	○	○
北海道教育委員会 （特別支援教育課）	○	○	○	
生涯学習推進センター	○	○	○	○
社会教育施設	○	○	○	○
障害当事者	○	○	○	

事業実施スケジュール

4月	
5月	
6月	・委託契約締結 ・再委託契約締結
7月	・第1回コンソーシアム会議の開催 (協定書等の確認、事業計画の確認、モデルプログラムの検討)
8月	・実態調査アンケートの検討 ・道内市町村対象研究協議会実施計画の確認（道内14管内において通年実施）
9月	・各構成団体における、各種事業の実施（通年で随時実施）
10月	・第2回コンソーシアム会議の開催 (モデルプログラムの検討、情報共有、実態調査アンケートの確認、学びに関する情報の収集・提供システム構築への情報収集、検討、コンファレンスの検討)
11月	・モデルプログラムの検討及び実施（通年で随時実施）
12月	・全道研修会（コンファレンス）の開催 ・コンファレンス参加者企画事業の実施
1月	★各プログラムで検討会議をもち、具体的な方策について協議の上、随時実施する。（オンラインでの開催も進める）
2月	
3月	・第3回コンソーシアム会議の開催 (今年度のまとめ)

令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

具体的な内容

※事業については、次の8項目に網羅的に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
 - ・コンソーシアムは、これまでの取組の成果を継承し、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）から幅広く参画を得て協定等の締結を行う。
 - ・コンソーシアムにおいては、北海道立生涯学習推進センターが中心となり、道内市町村や当事者への実態調査を行い、障害者の生涯学習の推進についての実態把握を行う。さらに、各地域の教育局（教育事務所）の機能を活かし、令和2年度に実施した質問紙調査の結果をベースにしなが、令和3年度に引き続き、各教育局管内市町村の障害者の生涯学習推進担当者や首長部局福祉担当者、各市町村社会福祉協議会等の関係者を対象とした研究協議会を実施するとともに、道内の各地域の実情を踏まえた学習プログラムの検討や、地域のニーズを把握するためのヒアリングを行う。なお、ニーズ調査に当たっては、当事者の参画を得て進める。
 - ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
 - ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
 - ④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
 - ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
 - ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策（費用負担の在り方等）の検討
- ⇒②～⑥の事業については、多様な実施主体によるモデルプログラムを次のとおり実施する。
- ・②及び⑤については、社会福祉法人やNPO法人等が主体となって実施するプログラム（障害福祉サービスと連携した学びの場・費用負担と在り方等）を中心に関係団体や障害当事者からの意見を踏まえた事業を実践する
 - ・②については、大学の公開講座等と連携したプログラム（卒業生の主体的な学びへの参画を促進するプログラム）
 - ・③については、大学の研究機能を活用した公開講座等のプログラム（ボランティアの育成・履修証明書の発行に向けたプログラム）
 - ・④については、文科省が作成した「障害者の生涯学習推進」のためのリーフレットを活用した好事例の収集や、各モデルプログラムと特別支援学校との連携したプログラム（関係機関・団体等との連携プログラム）
 - ・⑤については、社会教育施設等における講座等のプログラム（継続的に学ぶことができる講座・人材育成等）
- また、北海道の広域分散型の特徴を踏まえ、ICTの活用が可能なプログラムについては、遠隔学習を実施する。各種会議についても、遠隔会議システム等を活用し実施する。
- なお、モデルプログラムについては、これまでの検討事項や、道内各地域の実態調査の結果を踏まえ、道内各市町村へ普及させることをめざし、各市町村で取り組めるモデルプログラムとなるよう開発を進める。
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
 - ・北海道立生涯学習推進センターの有する相談支援や情報収集・提供体制を活用するとともに、他県における先進事例も参考としなが、障害者の生涯学習推進に向けたシステム構築への研究を行う。
 - ⑧地域における関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施
 - ・上記に示す研究によって得られた成果について、周辺の都道府県・市町村等の行政、学校、関係団体等に対して、報告・普及を行う。
 - ⑨読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
 - ・北海道立図書館と連携し、各市町村図書館等における障害者の支援に向けた取組の研究を行う。

文部科学省委託事業

障害者の生涯学習推進 コンソーシアム形成事業

令和4年度構想

事業の必要性

- H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要
- R1年7月障害者の生涯学習の推進方策について（文科省通知）→【都道府県に期待される取組】障害者の多様な学習活動の充実等

事業の概要

- ①関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用を行う企業等、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）が連携し、コンソーシアムを形成・運営する。
- ②効果的な学習を支援するための具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実践研究。

①地域連携コンソーシアムの設置

- 関係機関が連携した体制の構築→事務局（道教委社会教育課）
- 関係者の資質向上⇒市町村教育委員会等職員対象研究協議会の実施（R3～4年度 道内178市町村対象）
- 関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施（年1回）
- 障害者の自立や社会参加、ニーズ、生涯学習の機会提供等についての現状と課題を把握するための実態調査



②学習支援に関する実践研究

- 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- 学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組の実施
- 障害者の学びを支援する人材の育成
- 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

R2～継続

- ・市町村における障害者の生涯学習推進体制構築に関する実践研究【北広島市（石狩教育局）】
- ・みらいつくり大学校による実践研究【医療法人稲生会】
- ・関係団体等による事業【いっしょにね文化祭実行委員会 など】
- ・第6期北海道障がい福祉計画との関連事業（道保健福祉部との連携）
- ・「地域連携による障がいの生涯学習機会の拡大促進」事業との連携
- ・青少年教育施設との連携事業・大学との連携事業 など

R4～新規予定

- ・「共生社会コンファレンス北海道」と連動した事業
- ・特別支援学校との連携事業 など

成果 ○各地域で障害のある人の社会参加と活躍を推進 ○各地域における支援人材の増加と障害への理解を推進
○障害のあるなしに関わらず生きやすい共生社会の実現へ

2 具体的な取組

取組 1

関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

障害当事者団体に加えて、医療・福祉・教育等の関係者によって構成される地域連携コンソーシアムを形成し、各団体で実施する取組の情報を共有するとともに、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設けた。

1 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

コンソーシアムは、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関から幅広く参画を得る体制を構築して、学びの持続性を確保する取組の在り方について協議するとともに、次のような実証研究に取り組んだ。

- 学習プログラム・実施体制に関する実証研究
- 障害者の学びの実態把握のための調査研究
- 障害者の学びに関する情報の収集・提供のためのシステム構築のための研究
- コンファレンスの開催
- 継続的な講座運営に向けた検討

2 コンソーシアム構成機関

本事業の調査研究事業の成果を生かし、事業終了後も障害者の学びに関する調査や取組を継続することを見据え、幅広い分野の関係機関からの参画を得た。医療福祉や特別支援教育だけでなく、社会教育や地域との連携を専門分野とする大学関係者から協力が得られたことで、学びの持続性や地域と連携した学びの構築について幅広い取組が可能となった。

専門分野	所 属
医療法人	医療法人稲生会
社会福祉法人	社会福祉法人ゆうゆう
社会福祉	北海道社会福祉協議会
大学	北海道大学
	北海道医療大学
	藤女子大学
	北海道教育大学札幌校
特別支援学校	北海道真駒内養護学校
	北海道札幌あいの里高等支援学校
文化団体	いっしょにね！文化祭実行委員会
障害当事者団体	D P I 北海道ブロック会議
行政関係者（市町村）	北広島市教育委員会社会教育課
	岩見沢市健康福祉部
行政関係者（北海道）	学校教育局特別支援教育課
	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
	生涯学習推進センター

事務局：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議（第1回）報告書

- 1 日 時 令和4年8月17日（水）13:30～15:00
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員11名、代理出席3名、同席者4名、オブザーバー等1名、文部科学省3名、事務局・説明者5名
- 4 内 容 (1) 開 会
(2) 委員紹介
(3) 議 事
 - ①挨拶及び行政説明（文部科学省）
 - ・本事業を実施する背景・課題等についての説明と、北海道のこれまでの取組に対する評価をいただいた。
 - ②本事業の概要についての説明（社会教育課）
 - ・資料をもとに説明を行ったが、特に意見はなかった。
 - ③実勢研究事業（モデルプログラム）について
 - ・医療法人稲生会
 - 資料をもとに説明が行われたが、特に意見はなかった。
 - ・北広島市教育委員会
 - 今年度予定する取組の紹介と先進地視察についての報告が行われた。
 - ④調査研究事業について（生涯学習推進センター）
 - ・資料をもとに説明を行った。
 - ・「調査を行う上での物差しが不明確に感じる。結果をどのように活用すべきか検討した上で調査を行うべきではないか。」と質問及び要望が出された。
 - ⑤コンファレンスについて（医療法人稲生会）
 - ・資料をもとに説明が行われた。
 - ⑥その他
 - ・資料をもとに、卒業後の就労と学びの接続についての研修及び協議を行う機会の設定について、新たな提案がなされた。また、大学生が運営に参画する障害者スポーツの事業について、新たな取組の報告がされた。
 - ・履修証明書の発行に向けた可能性について議論を行った。
- (4) 閉 会

令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議（第2回）報告書

- 1 日 時 令和4年11月22日（火）13:30～15:00
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員9名、代理出席3名、同席者4名、オブザーバー等1名、文部科学省2名、事務局・説明者5名
- 4 内 容 (1) 開 会
(2) 議 事
 - ①報 告：事業の進捗状況について（社会教育課）
 - ・8月に開催した第1回会議以降の取組について報告した。
 - ・過去2年の取組の成果と課題をもとに、取組を9つの柱に分類して、取組を推進することを順に報告した。
 - ②協議1：コンファレンスについて（社会教育課、医療法人稲生会）
 - ・資料をもとに説明を行った。
 - ③協議2：実態調査の報告について（北海道医療大）
 - ・第1回会議で継続協議にするとした履修証明書の発行について、北海道医療大学の行ったニーズ調査の結果をもとに、構成団体が意見を交わした。
 - ・北海道医療大学による報告のあと、4つのグループに分かれて協議を行った。
 - ・グループ協議では、「事業を実施する人と障害のある人が、互いに対等な関係性（互いに利害が一致する関係性）で循環していく仕組みになるよう、本事業による取組の効果の分析・検証が必要である」「人材育成や地域住民に向けたアプローチは、福祉や社会教育の土壌であり、支援する・されるのではない障害者の生涯学習というところに学びがある」などの意見が出された。
 - ④その他
 - ・本会議について、文部科学省出席者2名より、感想や情報提供をいただいた。
- (3) 閉 会

**令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
地域連携コンソーシアム会議（第3回）報告書**

- 1 日 時 令和5年2月13日（月）14:00～15:30
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員9名、代理出席2名、同席者4名、文部科学省3名、事務局・説明者4名
- 4 内 容 (1) 開 会
(2) 議 事
 - ①報告1：共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道について（医療法人稲生会）
 - ・資料をもとに、事業内容やアンケート結果等の報告が行われた。
 - ②報告2：卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上に向けた協議について（社会教育課、北海道医療大学）
 - ・12月に実施した本協議で出された意見を報告した後、協議に参加した特別支援学校や北海道医療大学より改めて感想等をいただいた。
 - ③報告3：今年度および次年度の取組について（社会教育課）
 - ・資料をもとに、今年度および次年度の取組についての報告を行った。
 - ④協 議：次年度以降の取組の充実に向けて
 - ・次年度以降の取組充実に向けて、各構成団体から意見をいただいた。主な意見としては、学校の現状への配慮、取組を広げるネットワーク作りの充実、当事者ニーズのさらなる把握であった。
 - ⑤その他
 - ・本会議について、文部科学省出席者2名より感想や情報提供をいただいた。
- (3) 閉 会

取組 2

障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援

障害者の学びのニーズを踏まえた学習プログラムを開発するため、医療法人稲生会が実施する「みらいつくり大学校」の実証研究の成果を最大限に活用した講座や、道立青少年体験活動支援施設ネイパルが有する教育資源を活用した新たなイベントについては、今後の取組推進に大きな可能性を示す先行事例となった。

1 医療法人稲生会による「みらいつくり大学校」の実証研究事業

○概要

昨年度までの実証研究の成果と課題を踏まえて、当事者及び家族のニーズを踏まえた講座等を定期的で開催することにより、学びの機会の整備・拡充に向けた実証研究を実施する。



○定期講座等

アイヌ語講座、アイヌ食講座、音楽講座、オンライン＊ハワイアン、みらいつくり哲学学校、みらいつくり映画同好会、オタクの語り場、みらいつくり読書会など

○二風谷コタン見学ツアー（博物館との連携によるモデルプログラム開発）

令和3年度に取り組んだ、博物館等の利用を促進する動画が好評だったこともあり、その成果を生かしたバスツアーを実施して、博物館等の社会教育施設と連携・協働した講座の実施ノウハウを蓄積する機会とした。

2 道立青少年体験活動支援施設ネイパルにおける実証研究事業

○概要

障害の有無に関わらず、全ての人が体験できるプログラム開発のため、青少年体験活動支援施設ネイパルにおける実証研究事業を行った。

○事業内容

ア、アダプテッドスポーツを体験する取組

- ・日時 令和4年12月3日(土)～4日(日)
- ・会場 ネイパル砂川
- ・参加 小学生から中学生まで 25名
- ・内容 パラリンピック競技やアダプテッドスポーツの体験、チーム対抗ボッチャ体験、自由参加活動 等



イ、テントサウナを体験する取組

- ・日時 令和5年2月11日(土)～12日(日) (足寄会場)
令和5年2月13日(月) (厚岸会場)
- ・会場 ネイパル足寄、ネイパル厚岸
- ・参加 障害当事者、介助者など 5名(足寄会場)、5名(厚岸会場)
- ・内容 テントサウナ体験(講義含む)、ボッチャ、コーヒー教室、フィットネスマシン体験等

取組名：みらいつくり大学 定期講座等

団体名：医療法人稲生会（みらいつくり大学）

1. 趣旨・目的

障害当事者の学びのニーズを踏まえた講座内容、実施方法及び合理的配慮を含む必要な支援など、多様な学びの機会の拡充に資することを目的に、障害の有無にかかわらず参加できる講座等を継続して開催した。

2. 主な取組内容

- アイヌ語講座
アイヌ語による会話など通して、アイヌ民族の言語や文化を学ぶ。
- アイヌ食講座
アイヌ民族の伝統的な料理の調理等を通して、アイヌの知恵や文化を学ぶ。
- 音楽講座
音楽家などを講師に招くほか、札幌コンサートホール kitara の見学ツアーも実施した。
- オンライン＊ハワイアン
ハワイの歴史や文化を学ぶとともに、椅子に座りながら実施できるチェアフラを体験した。
- みらいつくり哲学学校
哲学に関する課題図書を読み進めた後、参加者全員での議論を行った。
- みらいつくり映画同好会
参加者が持ち寄る映画をテーマに、好きな場面や人物などについて語り合った。
- オタクの語り場
障害当事者が趣味や熱中していることについて、自身の思いを語り合う場を設けた。
- みらいつくり読書会
古典や児童文学など課題作品を読み、参加者同士で感想等について議論を深めた。

3. 成果

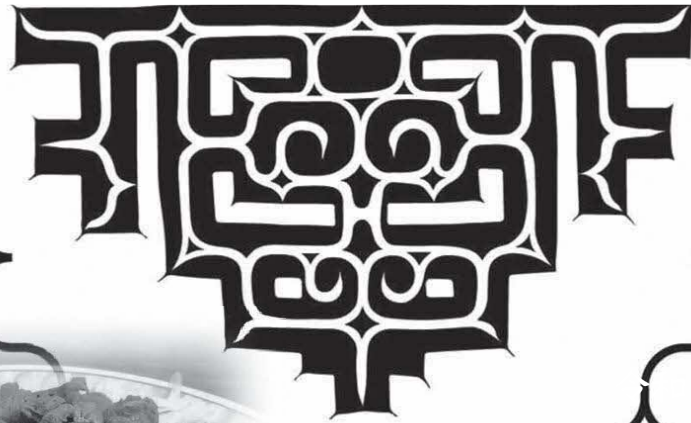
- 障害の有無に関わらず、ともに学ぶことのできる生涯学習の機会を設けることができた。
- オンライン配信による開催を中心としながら、新型コロナウイルス感染症の感染対策をとって集合形式で行うなどして、年間を通して定期的に複数の講座等を開催し、当事者ニーズに応じた内容で学びの場を展開することができた。
- 講座等への参加を促進するため、マイクやビデオ画面をオフにして聞きながら学ぶラジオ参加や、後日アーカイブ動画を見て学ぶ方法も推奨するなど、参加者の状況に応じた受講体制を構築することで、様々な障害種に対応した運営にすることができた。

4. 取組の詳細（HP 公開情報など）

○医療法人稲生会 みらいつくり大学 HP
<https://futurecreating.net/>

みらいつくり大学校 アイヌ食講座

イペアンロー



第4月曜日

ラジオ参加
歓迎

11:00~12:00

・ミニ講座(15分)・オンライン調理

日程(全12回)

ミニ講座

メニュー

4/25 アイヌ食の特徴

カムオハウ

5/23 山・川での知恵

キナオハウ

6/27 山菜について

プクサ

7/25 味付け・スパイス

ラタシケッ

8/22 身近なアイヌ食文化と生活の知恵

昆布タレ他

9/26 現代のアイヌ料理

カルシオハウ

10月 アイヌ見学ツアー(二風谷)

11/28 食文化の循環

チポロエモ

12/26 ロ承文芸・食と言葉との繋がり

チェッオハウ

1/23 アイヌ行事

ルイベ

2/27 保存について

サカンケ

3/27 余すことなく

チタタッ

日程や内容は変更になることがあります

平取町二風谷出身のアイヌ

講師 関根摩耶

北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。
アイヌ語弁論大会で2度最優秀賞受賞し、平成30年度STVアイヌ語講座ラジオ講座の講師やACジャパン北海道地域CMなど多数活躍。2022年1月からuhbにて毎週火曜日午後9:54~放送のmem(ム)を担当しアイヌ料理や文化を伝えている。

みらいっくり大学 音楽講座開催 (全5回)

日程: 2022年9月~2023年1月

会場: ご自宅 または会場

参加: オンライン

(zoom)

または会場

第1回~第2回の講座
2022年8月17日

受付開始!!



音楽講座の
最新情報はこちら



みらいっくり研究所ホームページ

<お問い合わせ>
医療法人 稲生会

電話 011-685-2799

11/5(土)

第3回は音楽発表会を開催!!

第2回
音楽を楽しもう
アフリカ編

開催日

2022年
10/21(金)
13:00~



講師

梅村圭氏
(ハケトウボーイズ)

第4回
音楽会場に
行ってみよう

開催日

2022年
12/17(土)
12:00~



会場

札幌コンサートホール
Kitara

第5回
音楽で表現
してみよう

開催日

2023年
1月予定
調整中



講師

杉田篤史氏
(INSPIリーダー)





講師紹介
看護師 山本智子氏
(国立音楽大学)

国立音楽大学音楽学部音楽文化教育学科准教授、博士(子ども学)、近著に、単著『養護教諭養成課程 医療的ケア児支援を含む 基礎看護実技』(北樹出版)、単著『音楽とジネス心理学』、単著『社会福祉論』(以上、開成出版)等、教育学を中心とする学際的な視点に基づいて、病气や障がいのある子どもの参加促進した乳幼児期からの発達支援に係る研究や教育に取り組んでいる。



第2回音楽講座

ジェンベのリズムを感じて！

音楽を楽しむ方法はたくさんあります。この講座はアフリカの太鼓「ジェンベ」のリズムに合わせアフリカの音楽を感じます。太鼓の仕組みを学んだり、東アフリカ・ケニアで開催されているジェンベのワークショップの様子も紹介します。色々な音楽の楽しみ方を体感しましょう。

第3回
音楽発表会
2022年11/5(土)
13:00~

会場：北翔支援学校
(家族交流会バザー会場内)
演奏者大募集！！

弾き語り、ダンス、歌などジャンルは問いません。当日は人工呼吸器や気管切開があっても素敵な歌声を届けてくれる kanako さんがゲスト参加予定！！



音楽発表会

演奏者の
お申し込みは
9/30(金)
まで！！



第1回
音楽を語ろう
2022年9/17(土)
13:00~

色々な「音楽」について語りませんか？

昨年度は思い出の曲をテーマに、それぞれのエピソードについて語りました。今年度はよりテーマを広げ「音楽を語ろう」です。何となく聴いている、リズムが好き、どんな理由でもOKです。皆で語り音楽の視野を広げませんか。講座の後半には山本氏による音楽講座も開催します。



第1回音楽講座

講師紹介

ジェンベ奏者 梅村 圭氏

(アフリカントラディショナルバンド ハクトロポーズ) 30歳の時にジェンベに出会い魅了される。在日マリ人、タマン・ジハバ氏に師事し、その他のさんのアフリカ人の叩き手からジェンベを学ぶ。現在はアフリカントラディショナルバンド「ハクトロポーズ」主宰。そのほか練習会を不定期で開催しつつ、練習仲間とライブ活動をおこなっている。ジェンベ奏者のほかに看護師の顔を持ち、2021年に居宅介護事業所運営舎を立ち上げている。



第4回
音楽会場に
行ってみよう
2022年12/17(土)
12:00~
(先着10組20名)

クリスマスオルガンコンサート♪

札幌コンサートホール Kitara の見学ツアー！クリスマスオルガンコンサートのリハーサルを見学できます。一般客はいままので落ち着いた環境で演奏を楽しむことができます。この講座のために用意した特別なイベントです。ぜひ、この機会をお見逃しなく！先着順ですので、お申し込みはお早め！！



第4回音楽講座

第5回
音楽で表現
してみよう
2023年1月
調整中

講師紹介

歌手 杉田篤史氏

(アカペラグループ INSPI リーダー)
1997年大阪大学でINSPI結成。2001年フジ系「ハモナビ」出演、メジャーデビュー。2005年より日立CMソング「この木なんの木」担当。2017年より音楽ハーモニからチーメンビルディングを学ぶ「ハーモニーション®」をスタート。愛媛大学羽鳥准教授らと共同研究をすすめている。



Online Hawaiian

オンライン*ハワイアン

ラジオ参加
OK

ハワイを楽しむ1時間

ゆったりとハワイの歴史、文化を学び、フラを体験してみませんか？

毎月第4金曜日 13:30~14:30

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 4月22日 | <input type="checkbox"/> 8月26日 | <input type="checkbox"/> 12月23日 |
| <input type="checkbox"/> 5月27日 | <input type="checkbox"/> 9月16日* | 2023年 |
| <input type="checkbox"/> 6月10日* | <input type="checkbox"/> 10月28日 | <input type="checkbox"/> 1月20日* |
| <input type="checkbox"/> 7月22日 | <input type="checkbox"/> 11月25日 | <input type="checkbox"/> 2月24日 |

*6月・9月・1月は第4金曜日から変更になっています



KARI (カリ先生)

ハワイアンネーム: Kawailehua (カヴァイレフア)

北海道生まれ。Ka Aha Hula O Kaiolohia (カアハフラオカイオロヒア)札幌主宰。東京でデザイナー、スタイリストの仕事を経てフラと出会う。2005年横浜にフラハラウ(教室) Kaiolohiaを創立。その後ハワイ島ヒロのクムフラ、ナホクと出会い、ハラウフラオカヒキラウラニを師事するハラウとしてフラの指導に努める。



武部 未来 (たけべみき先生)

二分脊椎症で、水頭症とアーノルド・キアリ奇形という合併症を持って産まれる。子どもの頃から、障害があっても、音楽が好き♪踊る事が好き♪高校卒業後ハワイに滞在、2012年9月に誰でも参加出来るチェアフラのサークルをスタート。障害がある方も、足や腰が痛い方も、元気な方も、それぞれのスタイルでHulaを楽しんでいます。



お申し込みはコチラから



お問い合わせ みらいつくり研究所 (担当: 宮田)

メール: miyata-na@kjnet.onmicrosoft.com

障害当事者の 結婚について考える

みんなで話そう
～結婚と恋愛について～



なかなか結婚の具体的なイメージわからない！
ぼんやり結婚したいけど、
今の生活がどう変わってくるんだろう…
そもそも相手をどうやって見つけんねん！
恋愛と結婚だけが選択肢ではないけれど、
さまざまな気持ちをみんなでお話ませんか？



メニュー

- ・出会いについて
- ・パートナーの介助について
- ・お金について

お申込み
QRコード



2022年 11月28日(月) PM19:00～20:30

どなたでも
参加OKです♪

ZOOMで開催

障害当事者と 介助について考える

みんなで話そう
～介助について～



介助者との距離感がよくわからない…
言いたいことがあるけれど、
どう伝えたらいいかわからない…
本当にこれでいいのか？
これを機にぶっちゃけてみましょう！



メニュー

○障害当事者側から

- ・印象深い介助者
- ・やってもらって当たり前感が出てしまう時
- ・明確に希望を伝える方法？
- ・介助の中で衝撃だったこと etc…

○介助者側から

- ・他の人の介助を知る方法
- ・介助者同士の語り場はあるのか
- ・距離を保つための工夫 etc…

2022年 12月19日(月) PM19:00～20:30

ZOOMで開催

主催：医療法人稲生会
担当：宮田、堀

みらいつくり大学校、連絡先：札幌市手稲区前田4条14丁目3-10

☎：011-685-2799

E-mail: miyata-na@kjnet.onmicrosoft.com

取組名：二風谷コタン見学バスツアー

団体名：医療法人稲生会（みらいつくり大学校）

1. 趣旨・目的

- ・障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援を踏まえた学びや体験活動の機会を拡充する。
- ・博物館等の社会教育施設を活用した取組を実施する際の運営ノウハウを蓄積するため、障害当事者・介護者・支援者が参加した実証研究を実施する。

2. 取組内容

- ・みらいつくり大学校で定期的に行っているアイヌ文化を学ぶオンライン講座の学びをさらに深めるため、平取町の二風谷アイヌ文化博物館への日帰りバスツアーを実施した。
- ・施設見学、講話、体験学習等を実施して、アイヌ文化への理解を深めた。
- ・障害当事者が参加しやすいように、車いすにも対応した福祉バスを借り上げて実施した。
- ・参加者の学びを深めるため、施設への下見や担当者との打ち合わせを繰り返し行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策として、消毒・検温・黙食など、感染対策を徹底した。

3. 成果と課題

〈成果〉

- ・屋外での集合形式による参加型の体験活動を実施することで、障害の有無に関わらず学ぶことができるための支援や合理的配慮の在り方について、ノウハウを蓄積することができた。
（参加者からは、「オンラインの学びもためになるが、実際に博物館へ行くことができたことで、より身近な体験ができて、学びが深まった」との声が寄せられた。）
- ・事前に運営者が施設への下見を行い、施設側と情報交換をすることで、障害当事者が施設を利用する際の課題を共有でき、バリアフリー対応の重要性について理解を深める機会となった。

〈課題〉

- ・ユニバーサルトイレの設置状況や移動ルート内にある休憩場所の確認や、予定にない対応が求められた際の緊急対応については、関係者間の事前の情報共有の重要性が浮き彫りになった。
- ・バスの運行時に、道路の凹凸によって、車椅子の揺れが大きかった。また、その他にも想定外のトラブルも発生したため、安全面の確保については一層の配慮が必要である。

4. 活動の様子

施設見学・講話・体験学習



↑ チセ内での講話の様子



↑ 体験学習の様子

5. 様々な配慮

福祉バス

スロープが設置されたチセ



← 昇降機つき福祉バス

実際の乗降の様子→



← 出入り口の段差に
スロープが設置された
チセ（アイヌの住居）

内部の段差にも
スロープが設置された→



6. その他取組の詳細（HP 公開情報など）

○医療法人稲生会 みらいつくり大学校 HP

<https://futurecreating.net/works/works-6914/>

○医療法人稲生会 YouTube

[https //www.youtube.com/watch?v=HdqEN5joGTs&t=3s](https://www.youtube.com/watch?v=HdqEN5joGTs&t=3s)

ニ風谷コタン 見学バスツアー

お申し込みは
9/22(木)まで!



開催日 2022年10月15日(土) 9:00~17:00

参加費 おとな 2,000円、小・中学生 1,000円
(アイヌ食弁当1,500円、各種体験1,000円~は別途料金がかかります)

タイムスケジュール

- 8:50 JR 札幌駅北口周辺集合
- 9:00 出発
- 11:00 ニ風谷コタン到着
・アイヌ文化博物館 見学
- 11:45 昼食
- 13:00 アイヌ語の語り
- 13:30 各種体験・自由時間
- 15:30 ニ風谷コタン発
- 17:00 JR 札幌駅北口周辺着
- 17:30 JR 手稲駅着

福祉バス
乗車定員 **30名**

アイヌ食の
お弁当

アイヌ語の
語り

お問い合わせ先 担当：久保

電話：011-685-2799 (代表) メール：kubo-ka@kjnet.onmicrosoft.com

令和4年度パラスポチャレンジ報告書

1 事業の概要

■ねらい

障害者の生涯学習推進に向け、アダプテッド・スポーツを研究する大学と連携し、小・中学生に障害の有無にかかわらず共にスポーツに取り組む楽しさを体験させることを通じて、障害の有無にかかわらない社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障害者の学びを支援する人材育成の基盤とする。

- 期日 R4.12.3(土)～4日(日) 1泊2日
- 対象 小学生・中学生(障がいのある人もない人も)
- 場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
- 参加者数 25名(内 障がい者7名)
- ボランティアリーダー 10名



2 プログラムの概要

■日程表

	13:30		14:00		14:30		17:00		17:30		18:30		21:30		22:00	
12/3(土) ～ 4(日)	受付開始時間: 13:30		受付	出合いの つどい	活動1 パラリンピック競技、アダプテッド スポーツ等の体験			夕食	自由参加活動(焚火、カ ード・ボードゲーム等) 入浴		就寝 準備	就寝				
	6:30	7:30	8:30	9:00		11:00	11:20	12:00								
	起床	準備	朝食	部屋清掃 部屋点検	活動2 チームで対戦(何にな るかはお楽しみ)		ふりかえ り	別れの つどい	解散							

■活動1 パラリンピック競技、アダプテッド・スポーツ等の体験

① 車いす競技	陸上競技用、ラグビー用、バスケットボール用の車いすの乗車体験。
② アンプティサッカー	杖を突いた状態でのサッカーでのドリブルやシュートの体験。
③ フライングディスク	椅子に座った状態でフライングディスクを投げ、的に当てる体験。
④ カーリング	椅子に座った状態で的に止まるようにステッキでストーンを押す体験。
⑤ ボッチャ	ジャックボール(目標球)に赤青のボールを近くに止まるように投げる体験。
⑥ ゴールボール	アイマスクをして目が見えない状態で、転がってくる鈴の音がするボールを止める体験。
⑦ ブラインドサッカー	アイマスクをして目が見えない状態で、鈴の音がするボールを音を頼りにドリブルする体験。
⑧ シッティングバレーボール	グループで輪になり床に座った状態で、ミニバレーボール用のボールを床に落とさずに連続トスをする体験。



■活動2 チームで対戦

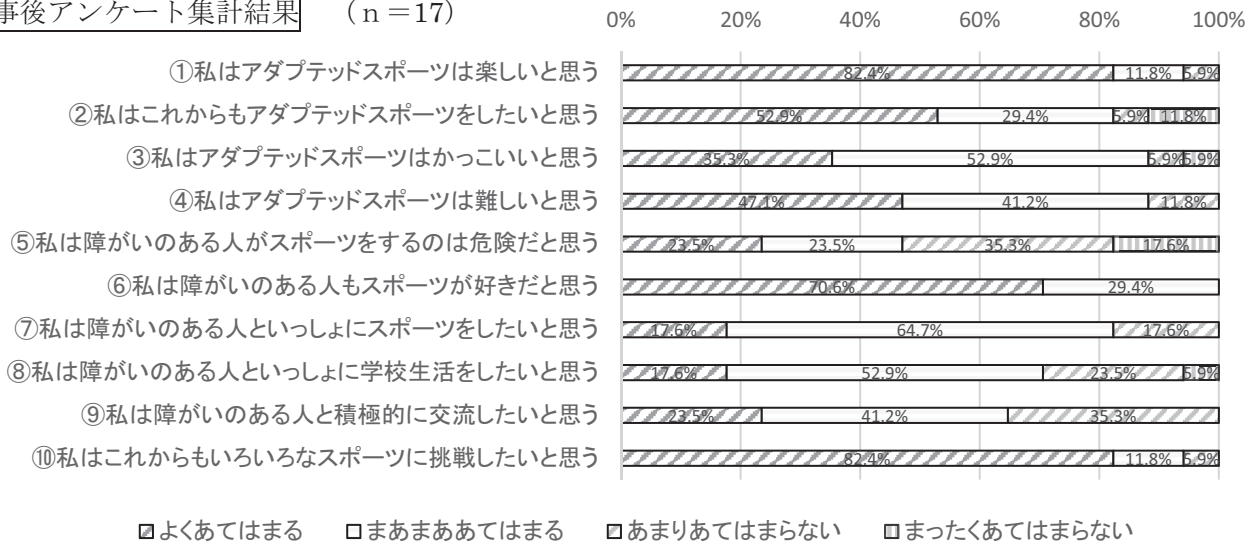
○ボッチャの総当たり戦

ボランティアスタッフも加わり、任意の8チームでのリーグ戦。イニングごとに最低1回は椅子に座ったままでの投球をするルール。コートは進行方法を理解しセルフジャッジで行う。

3 事業後のアンケート、感想等

事後アンケート集計結果

(n=17)



全体の感想

- ・ チームの人と一緒に達成感を味わえた。もっと他のアダプテッド・スポーツもしたいと思った。
- ・ アダプテッド・スポーツは難しいこともあり大変だったけれども、チームの人と一緒にプレイすることが楽しかった。
- ・ 知らない人ばかりだったけれども一緒にスポーツをしてなかよくなれて良かった。
- ・ 障がいがあってもスポーツが好きで、スポーツを楽しむことができることは良いことだと思う。
- ・ 思っていたよりもアダプテッド・スポーツが楽しかった。パラリンピック選手はすごいと思う。



ゴールボール

4 まとめ

参加者がアダプテッドスポーツに触れ、そのスポーツそのものの楽しさや障がいの有無にかかわらずに楽しめるスポーツであることの理解を深められたことは本事業の大きな成果であり、本事業の実施課程で大学と連携し、大学のもつ資源を活用させていただくことで事業内容が充実したことは今後同様の事業を進める際の大きな強みとなる。

しかし、「障がいの有無にかかわらない」をうたった事業としては、ほとんど健常者しか参加がなかった事業となったことは、大きな課題である。

障がいのある児童・生徒にも参加しやすいような参加形態（部分参加を可能にした）、通常の主催事業よりも大々的な広報（空知管内対象学年の全児童へのチラシ配布、近隣の放課後デイサービス事業所への訪問）等の参加に結び付くであろう工夫を行ってみたが、結果は伴わなかった。

要因としては、新型コロナウイルス感染症の再拡大と重なってしまったこと、保護者の送迎の負担などが考



ボッチャ

えられる。また、障がい当事者やその保護者にネイパル砂川が行う「障がいの有無に関わらず参加できる事業」の認知度が低かったことも考えられる。

ネイパルは合理的配慮のもと、障がいの有無にかかわらず参加者を受け入れる施設ではあるが、障がい当事者やその保護者からは事業に参加するハードルが高い可能性もある。

障がい者の生涯学習を支えるためには、このような事業を定期的開催し、障がい当事者やその保護者の認知度を向上させることが大切である。

令和4年度（2022年度）「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究

1 調査の目的

障がい者の生涯学習を推進していく上で、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要とされている。本研究は、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

2 プログラムの概要

(1) 目的

障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

(2) 実施日

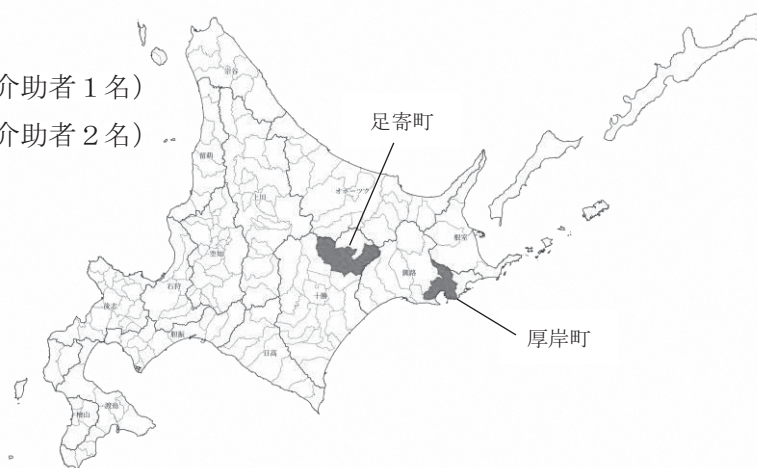
- ①令和5年（2023年）2月11日（土）～12日（日）1泊2日
- ②令和5年（2023年）2月13日（月）

(3) 活動場所

- ①北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄（十勝管内足寄町）
- ②北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸（釧路管内厚岸町）

(4) 参加実績

- ①足寄：5名（障がいのある方4名、介助者1名）
- ②厚岸：5名（障がいのある方3名、介助者2名）



(5) 運営者

- ①足寄：10名（北海道立生涯学習推進センター職員3名、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄職員2名、北海道教育庁十勝教育局職員1名、サウナ普及団体3名、看護師1名）
- ②厚岸：10名（北海道立生涯学習推進センター職員1名、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸職員5名、北海道教育庁社会教育課職員1名、サウナ普及団体2名、看護師1名）

(6) プログラムデザイン

①足寄

1日目

	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
	開会式	ブレイク アイス	テー オリ エン	入室 活動 準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	軽スポーツ ポッチャ 体験	就寝 準備	就寝

2日目

6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	11:30	12:30
起床・ 布団消毒	朝食	部屋 清掃	コーヒー教室	ふりかえり	昼食	閉会式

- ・体験活動①「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動
- ・体験活動②「ポッチャ」：ポッチャ体験を通して参加者同士の交流を図る軽スポーツ活動
- ・体験活動③「コーヒー教室」：リラックス効果のあるコーヒーの学び（コーヒーについて）とハンドドリップ実践の講座型体験活動。

②厚岸

15:30	15:45	16:30	16:35	16:50	17:30	18:30	19:00	19:30
開会式	軽い運動体験	活動準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	ふりかえり	閉会式

- ・体験活動①「軽い運動体験」：最新のフィットネスマシン等を活用し、「体を動かす心地よさ」を体感する軽い運動体験
- ・体験活動②「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動

(7) 実施の準備・運営と指導

プログラムを運営・指導するにあたって、次の事項に留意した。

- ・コロナ感染症対策：参加者のマスク着用、検温、手指消毒を徹底するとともに、活動の際はソーシャルディスタンスを保つなど感染症対策を講じた。
- ・ヒートショック対策：事前に参加者の健康チェックを行うとともに、活動前には入浴して体を温めてからサウナを利用するようにした。また、看護師を配置するなど安全面の確保に向けて配慮した。
- ・障がい種の把握：参加者を対象に事前調査を実施し、障がい種や体験活動の経験の有無など、参加者一人一人の特性を把握し、施設の利用やプログラムの運営の際に必要な支援について配慮した。
- ・事前踏査：運営者とサウナ業者が活動場所を事前に踏査し、安全に活動できるような環境を整備した。また、運営者がオンラインを活用して事前に綿密な打合せを行って当日に臨んだ。

3 調査の概要

(1) 調査の概要

「インクルーシブキャンプ In ほっかいどう」実証研究（青少年教育施設における事業の実証）

- ・社会教育施設における障がい者への支援体制・状況
- ・社会教育施設における体験活動プログラムの実証
- ・ヒアリング終了後、調査報告書としてまとめる。

(2) 調査時期

①事前調査

事業実施約3週間前に、参加者（障がい当事者）を対象に質問紙調査を実施。調査用紙をメールで送付し回答を得る。項目は、参加者に関する基本情報。

②事後調査

プログラム終了後、ふりかえりの時間に参加者及び介助者を対象に質問紙を配付し、回答を得る。また、必要に応じてヒアリングを行う。

(3) 調査対象

- ・29歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・29歳男性（中札内村在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・48歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・車いす使用）
- ・56歳男性（岩見沢市施設）：身体障がい（脳性麻痺・車いす使用）
- ・47歳男性（厚岸町施設）：知的障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：発達障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：精神障がい、発達障がい

(4) 調査員（研究員）

北海道立生涯学習推進センター職員

(5) 調査内容

①事前調査

質問項目

- ・障がい種及び診断された時期
- ・特別支援学校通学経験
- ・体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容
- ・普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット
- ・これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいという要望
- ・普段実施している体験活動の種類や内容

②事後調査

- ・障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想、課題点など
- ・青少年体験活動支援施設を利用した感想、課題点など

取組 3

学校教育法第 105 条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討

学校卒業後の学びの継続性を確保するため、大学が有する教育資源を効果的に活用することが求められている。そのため、本コンソーシアム会議では、学校教育法第 105 条に基づいた履修証明書の発行の可能性も含めて、大学等が連携した新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討を実施した。

1 履修証明書発行の可能性についての具体的な検討

○第 1 回コンソーシアム会議における議論

- ・大学側には運営面、受講者側には費用的な負担が発生する影響にも鑑み、慎重な協議が必要
 - ・一つの大学での実施は困難な状況にあるため、複数の大学が協力して、現在実施する公開講座やオープンカレッジを土台とした取組の可能性を今後も模索
- ※履修証明書の発行も含めて、大学のもつ教育資源を活用した取組の在り方については、今後も継続協議することを確認。

○第 2 回コンソーシアム会議における議論

- ・第 1 回コンソーシアム会議の内容を受けて、北海道医療大学が特別支援学校や企業等を対象に実施したニーズ調査の内容も踏まえて、多様な主体が連携した取組の可能性について協議。

2 「卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上」に向けた協議

○日 時 令和 4 年 12 月 20 日（火） 9:30～10:30

○方 式 遠隔会議システム ZOOM による協議

○参 加 北海道医療大学、北海道札幌あいの里高等支援学校、北海道真駒内養護学校、保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課、学校教育局特別支援課、生涯学習推進局社会教育課

○内 容 障害者の卒業後の学びを充実させるためには、特別支援学校等の在学中から学びの場に参画することが望ましい。また、労働・福祉分野との連携・協働した取組が一層必要となることから、切れ目のない支援体制の整備と生涯学習へのアクセシビリティ向上を目標とする今後の事業展開の可能性について、関係者が現状および課題を共有した。

3 先進地への視察

○宮崎県への視察（10 月 25 日（火）～10 月 26 日（水））

- ・多様な主体が参画する宮崎県のコンソーシアムの取組を視察することで、大学も含めた複数の教育機関等が連携した学びのあり方について理解を深めた。

○和歌山県への視察（12 月 6 日（火）～12 月 8 日（木））

- ・社会福祉法人一麦会や関係機関の取組を視察することで、障害者支援や学びのあり方について学び、ゆめ・やりたいこと実現センターの視察では、当事者と共に学びを引き出す居場所づくりについて理解を深めた。

「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」に係る 北海道医療大学と関係特別支援学校とのオンライン協議 次 第

1 概要

- ・日 時
令和4年12月20日（火）9時30分～10時30分
- ・会 場
Zoomによるオンライン方式
- ・出席者
北海道真駒内養護学校
北海道札幌あいの里高等支援学校
北海道医療大学 看護福祉学部
保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
学校教育局 特別支援教育課
生涯学習推進局 社会教育課
- ・内 容
ア、「卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上のための地域連携コンソーシアム形成事業」について
イ、特別支援学校の現状やニーズについての聞き取り
ウ、本事業の来年度の実施についての意見交流
エ、その他

2 協議の流れ

- ・開会
ア、主催者挨拶
イ、協議の趣旨説明
ウ、自己紹介（近況や専門分野等の紹介）
- ・協議
ア、北海道医療大学（宮本准教授）からの説明
イ、特別支援学校の現状やニーズについて（出席者からの聞き取り等）
ウ、意見交流（各出席者からの御意見等）
- ・閉会
ア、業務連絡（コンファレンスおよび第3回コンソーシアムについて等）

令和4年度 卒後のキャリア支援と生涯学習アクセス向上のための地域コンソーシアム形成事業

【目的】

北海道における教育・医療・福祉・労働各分野の取り組みの連動を目指し、卒業後（高等支援学校、高等特別支援学校を想定）の進学や就職の選
 択肢を増やし、切れ目ない支援体制の整備と生涯学習へのアクセス向上を目標とする研修及び協議の場を展開する。

事業概要

就労支援分野と連携した卒業後の支援体制構築を目指した事業を展開する。生活基盤の維持に留まらず、文化やスポーツなどに触れられるような、地域における豊かなつながりを持つ支援体制整備に向けて、様々な取り組みを浸透させる媒介を本コンソーシアムが担うことを目標とする。それらを通して、就職先となる企業との連携を強化し、マッチングの向上も視野に入れる。様々な分野の団体が協働するための協議の場や研修を実施するとともに、様々なキャリアイメージやつながりの場を獲得するための生徒向けの研修を実施する。

背景

【令和2年度の成果概要】

成果：新たな連携やつながりを築くことができた。

課題：様々な取り組みの実態やその成果を発信することが必要。

【北海道医療大学 令和3年度成果】

課題：情報提供の場や活動資源の不足・地域差、学びの連続性のあり方、学校在籍時からの関心の醸成。

生涯学習に対して、就労との連動、金銭管理、人間関係、健康管理、仲間とつながる場などの役割を求めている。

学校に様々な学習機会の情報が集まる状況にない。

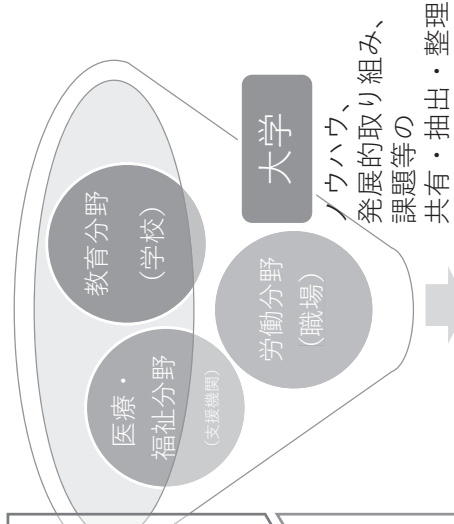
【全国的な課題】

職場定着（就労を継続できる地域の仕組みづくり）、就職率や進学率（多様なキャリア形成）

切れ目ない文化・スポーツ・学びの機会
 つながりの場

【卒前】
 ・在学中からキャリアや生涯学習のイメージを獲得
 ・就労を含めた生活支援ネットワークの共有

【卒後】
 ・ネットワークを活用した職場定着支援
 ・職場や支援を通じた学び等の機会へのアクセス



大学の職場定着や
 発展的取り組みにつなげる

2022年度 地域コンソーシアム形成事業 各分野の役割イメージ（括弧内は副次的意図）

【教育分野】

職場とのマッチングや就職に向けた支援の現状や課題、発展的取り組みを共有する。
 （職場や生活支援の分野の事業体とのつながりを開いていく。）

【福祉分野】

地域生活において学びの場につながる生活支援の現状や課題、発展的取り組みを共有する。
 （職場や余暇の支援を切れ目なく整備できる体制を目指してつながりを開いていく。）

【労働分野】

就労が定着している地元企業・事業所のノウハウを共有する。
 （教育や福祉との連動ができるようつながりを開いていく。）

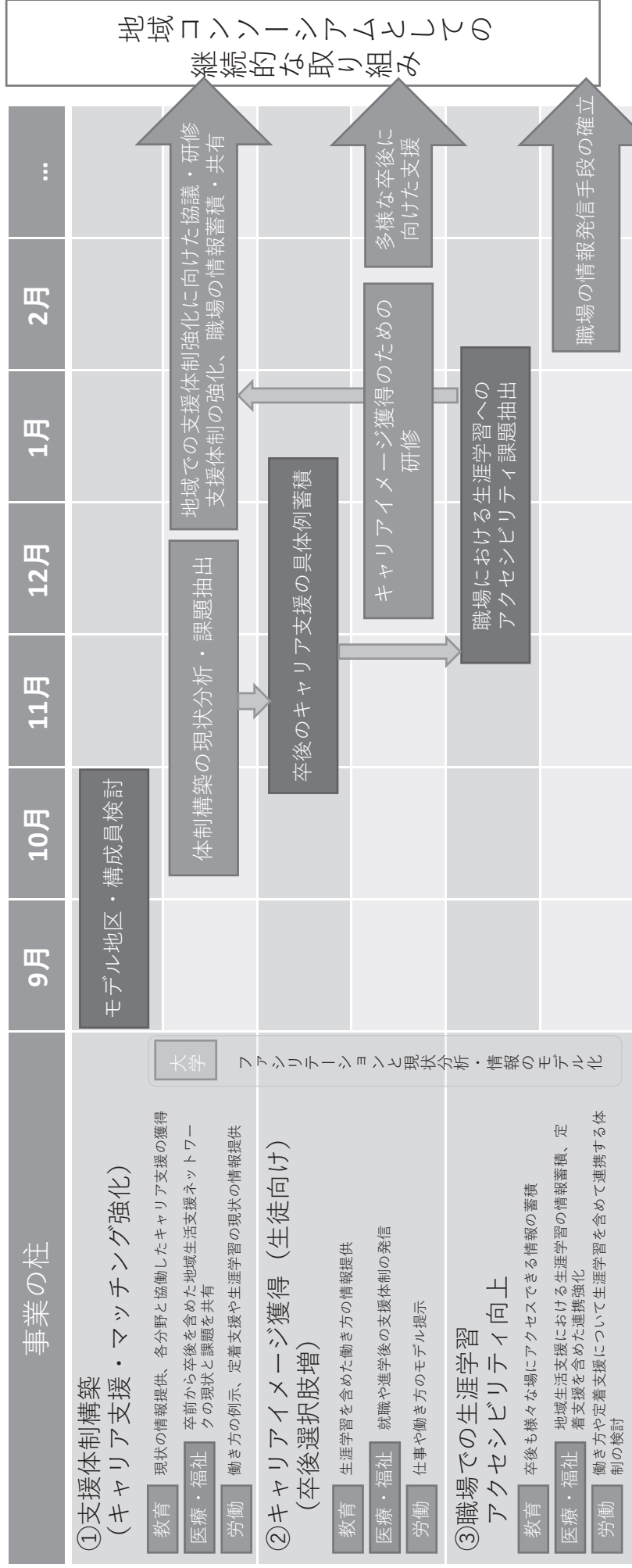
【大学】

様々な取り組みの発信を媒介し、それぞれの分野間の協議を促進する。
 （体制整備に必要なノウハウを蓄積、モデル化し、人材育成の根拠につなげる。発展的取り組みの創発支援。）

【生徒に対して】

キャリアイメージの獲得、卒業後の選択肢の増加、つながり続けられる場の獲得を目指す。

地域コンソーシアム形成事業 プロセス構想



必要経費 (概算)

費目	金額	摘要
会議費		
会場費	24,000	6,000 × 4回 ※医療大利用の場合は無料
その他	10,000	資料代等 2,500 × 4回
研修運営費		
講師謝金	20,000	10,000 × 2回
その他	10,000	資料代等
計	64,000	

事業プロセス (構想)

【構成員】：モデルとする地区 (自治体) の教育・医療・福祉・労働各分野から抽出する。

① 支援体制構築
就職や進学の実績、就職後の定着支援体制の現状を踏まえ、マッチングを含めたモデル地区における支援体制強化に向けた情報共有や体制のあり方を検討する。

② キャリアイメージ獲得 (内容は地域コンソーシアム構成員で検討)
構成員の教育機関において、多様なキャリアと生涯学習モデルを学習できる研修を実施する。モデル地区において、卒業後のキャリア支援の具体例を現状から紹介する。モデル地区において働きながら様々な活動に触れられる機会があると良い。

③ 職場での生涯学習アクセシビリティ向上
モデル地区での就職実績や生涯学習プログラムへのアクセシビリティの現状を踏まえ、課題を抽出する。それらを基に、働きながら多様な機会に触れられる情報発信手段や生涯学習プログラムのあり方を検討する。

宮崎県への先進地視察

1 視察概要

(1) 日時

令和4年10月25日（火）～26日（水）

(2) 視察先及び視察テーマ

①宮崎県教育庁生涯学習課

- ・都道府県レベルのコンソーシアムを形成し、行政と民間の連携による広域的な事業体制を構築する取組および工夫について
- ・テレビや新聞、その他のメディアを活用した一元的な情報提供体制の構築や事業成果の普及に向けた具体的な取組について

②NPO法人障害者自立応援センター YAH!DOみやざき

- ・当センターで継続する活動の概要について
- ・当事者のニーズや願いに即した障害者の生涯学習推進の在り方について

③南九州大学・野村宗嗣研究室

- ・障害者やその家族を対象とした、公開講座等の大学の取組について

④霧島おむすび自然学校

- ・知的障害や発達障害のある人たちの野外体験活動を通じた学びの支援について

2 視察報告

①宮崎県教育庁生涯学習課

地区（中部、南部、北部）に分けた取り組みについて具体的に知ることができ、身近な地域における実践の参考となった。情報を一元化した情報提供やメディアの活用など、システムの構築や発信に向けた参考となり、その重要性も再認識された。

②NPO法人障害者自立応援センター YAH!DOみやざき

車いすユーザーの視点から、学生との交流の場など、出会いの場・第3の居場所として生涯学習に対するニーズがあった。また、当事者が企画から参加できる機会の重要性（主体的活動の楽しさ）、気軽に行ける実施場所の工夫などの必要性も語られた。

③南九州大学・野村宗嗣研究室

インクルーシブな公開講座は活動の目的や対象像が整理されていた。学生もサポートについて学べる場にもつながっており、大学の環境づくりの重要性も示唆された。また、学校卒業後に仲間が集まれる憩いの場の役割も果たしていた。

④霧島おむすび自然学校

野外活動の効果について知ることができた。事例から多様な体験の場として、自己理解を促進し、成長が実感できる場としての成果が分かった。一方で、サポート人材や財源などの課題、障害に合わせた工夫のあり方も重要である。また、フットパスなど地域をフィールドにすることで、地域の方との出会いや障害理解につながる取り組みも知ることができた。

和歌山県への先進地視察

1 視察概要

(1) 日時

令和4年12月6日（火）～8日（木）

(2) 視察先及び視察テーマ

- ①社会福祉法人つわぶき会 T-JOB
 - ・自律訓練や就労移行支援の事業所での取組と障害者の生涯学習の関わりについて
- ②キセキの杜（就労移行支援事業所）
 - ・当該事業所の取組や他機関との連携、障害者の生涯学習との関わりについて
- ③社会福祉法人一麦会（麦の郷）就労継続支援B型 Po-zkk（ポズック）
 - ・当該事業所での障害者の就労継続支援の取組について
- ④社会福祉法人一麦会（麦の郷）ゆめ・やりたいこと実現センター
 - ・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」や「夕刻のたまり場」の取組について
- ⑤紀の川市教育委員会及び打田生涯学習センター
 - ・ゆめ・やりたいこと実現センターと取り組む障害者の生涯学習に係る活動について

2 視察報告

①社会福祉法人つわぶき会 T-JOB

自立や就労移行のために、所属感を養うことや自己肯定感を高めることと、それにつながるような余暇活動や生涯学習の場の重要性について認識できた。

②キセキの杜（就労移行支援事業所）

当事業所とゆめ・やりたいこと実現センターの取組の関係性から、社会参加や就労移行と生涯学習の好循環事例を知ることができた。

③社会福祉法人一麦会（麦の郷）就労継続支援B型 Po-zkk（ポズック）

やらされる仕事ではなく、アート制作などの、表現を仕事とすることの重要性について学ぶことができた。

④ゆめ・やりたいこと実現センター

障害者が仕事帰りなどに利用する「夕刻のたまり場」の取組を通して、利用者の「こんなことをしたい」という願いや希望を引き出すこと、障害の有無に関わらず共に学びを作り上げること、ありのままにいられる場を作ることの重要性について理解を深めることができた。

⑤紀の川市教育委員会及び打田生涯学習センター

市町村がゆめ・やりたいこと実現センターなどの団体と協力して障害者の生涯学習を推進する取組について学んだ。また、公民館とゆめ・やりたいこと実現センターが連携し、障害者を対象とした公民館講座を開設しており、地域の人々の学び集う場や、地域課題の改善等に向けた機能を果たす場としての取組についても学ぶことができた。

※上記に加えて、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」の視察も行い、北海道の取組拡充に向けて多くの情報を得ることができた。

取組 4

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施

障害者の生涯学習に対する意欲向上については、学校在学中から学びの場に参加することが望ましいが、地域における学びの場の整備状況は十分とは言えず、特別支援学校も含めた関係者が改善に向けた方策を検討することが必要である。

今年度は専門的な知見を有する大学へのヒアリングに取り組み、先進事例の把握と課題の整理に努めるとともに、大学が核となる講座の開設にも取り組んだ。

1 道内の大学へのヒアリング調査

○北海道医療大学（対応：志水幸教授ほか）

- ・コロナ禍前には、学生活動の一つとして、知的障害者を対象としたオープンカレッジを実施。地域住民が講師になることも。新規参加の少なさが課題。
- ・卒業後の学びの機会を保障するためには、企業等や福祉分野、特別支援学校との連携や理解促進が鍵となり、研修や協議の場の充実が必要と認識。

○北海道教育大学（対応：安井友康教授）

- ・余暇活動の充実の必要性を認識しており、小・中学生を対象とした遊び場を継続実施。卒業後の障害者を対象とする講座は、周知に課題。
- ・地域の教育資源や地域人材を用いて、当事者が意欲を持って楽しみながら参加できる講座設定が必要。

○北海道大学（対応：宮崎隆志教授）

- ・社会教育が重視してきた“地域づくり”という視点を重視することが重要。
- ・当事者ニーズを捉えた、“学びと活動の循環”を意識した講座の開設も必要。
- ・市町村で事業を実施する際には、誰も取り残さない社会の実現に向けて、“障害者とともに学ぶ講座”の実施を期待。

2 大学や特別支援学校等が連携した学びの機会の拡充

○北海道教育大学札幌校「みんなの遊び場」

- ・特別支援学校の児童・生徒、きょうだいを対象に、エアポリン等の遊具を用いた自由遊びや、リトミック運動の要素を用いたリズム運動の機会を提供。
- ・特別支援教育を専攻する大学生とのふれ合いは、参加者及び保護者からも好評。

○とうべつチャレンジドクラブ「インクルーム・ボッチャ」

- ・北海道医療大学地域連携推進センターや当別町スポーツ推進委員協議会と共催で行ったボッチャの体験を通じたインクルーシブな交流機会の開設。

○北海道医療大学「オープンカレッジ in 北海道医療大学」

- ・知的障害の方を対象に、講座「パラスポーツ概論」と実技「ピンポン玉を用いたレクリエーション」を実施。大学生が運営や学習サポーターとして活動。

3 文科省作成リーフレットを活用した好事例の収集

- 北広島市委託事業において先進地（東京都）を視察し、コンソーシアム会議やコンファレンスで報告

参加無料

2022

みんなの遊び場

in 北海道教育大学

- 第1回 11月 8日(火) ≫時間
第2回 11月22日(火) 16時40分~17時40分
第3回 12月 6日(火) (途中休憩あり)
第4回 12月20日(火) ≫場所
第5回 1月17日(火) 北海道教育大学札幌校

≫定員
6名(予定・先着順)

障害のある子どもだけでなく、
きょうだいの参加もOK!

北海道教育大学では、授業の一環として
子どもたちと実際に関わる実践を多く取り入れています。
この「みんなの遊び場」では、特別支援教育を学んでいる学生たちが、
主に身体障害をもつ子どもたちを対象に遊びの機会を提供することで、
子どもたちの楽しみと学生の学びの融合を目指しています。

おもしろい空間



たのしいあそび

申し込み・お問い合わせ: asobiba.sapporo@gmail.com

件名に、「みんなの遊び場 第〇回参加希望」とご記入ください。
折り返し、こちらから参加の可否や詳細のご連絡をします。

大学におけるパラスポーツに関する障がい者の生涯学習の提供と地域づくり

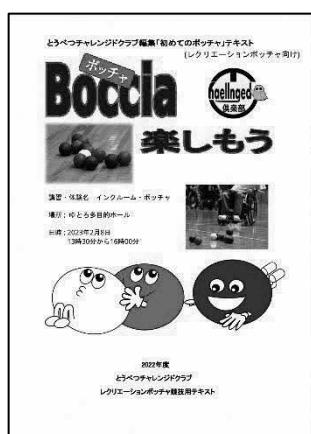
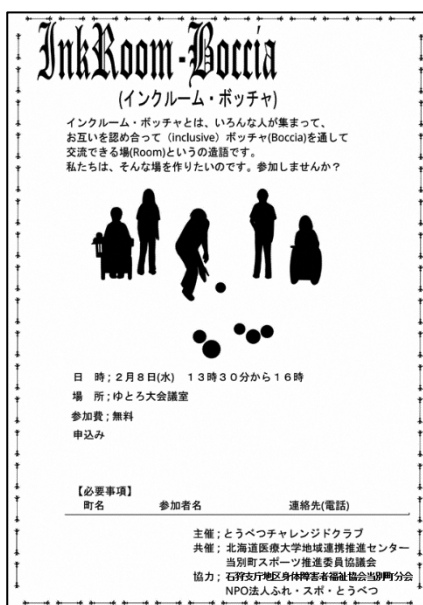
北海道医療大学（講師：近藤尚也）

目的 身近な地域でパラスポーツの定期的な活動の場（生涯学習機会）を提供
生涯学習の機会を通してインクルーシブな地域づくりにつなげる

当別町内関係機関と連携したインクルーシブなパラスポーツ活動の取り組みの実践（導入）

「インクルーム・ボッチャ」

1. 目的 障がいのある人もない人も、高齢者も子どもも、誰でも気軽に立ち寄って集まれる場、からだを動かせる場とし、また、そのような場を定期的にみんなで作り、活動していく（みんなで作る生涯学習の場）
2. 主催 とうべつチャレンジドクラブ
3. 共催 北海道医療大学地域連携推進センター、当別町スポーツ推進委員協議会
4. 協力 石狩支庁地区身体障害者福祉協会当別町分会、NPO 法人ふれ・スポ・とうべつ
6. 会場 当別町総合保健福祉センターゆとろ 多目的ホール
7. 参加費 無料
8. 参加者 22名
(障がい当事者、障がい者スポーツクラブメンバー、スポーツ推進委員、大学生など)
9. 日時 2023年2月8日(水)13時30分から16時
10. 内容 ボッチャ体験（団体戦：3人1チームをめやすに当日集まった人数でチームを決める）
※参加者は審判も体験。競技を通じて交流を深める
11. ルール ボッチャの公式協議ルールを少し変更して誰もが楽しめる「レクリエーションルール」（当別チャレンジドクラブ作成）開催当日にルール説明
12. その他 屋内で履替えられる靴（雪で外靴が濡れている場合）・動きやすい服装。
新型コロナウイルス感染対策（マスク着用・消毒など）。体調がすぐれない場合は無理せず欠席すること。
13. 事務局 とうべつチャレンジドクラブ



今後も関係機関と協力し、参加対象も広げながら定期的に活動を継続していくことを目指す。

北海道医療大学「2022年度 第1回オープンカレッジ in 北海道医療大学」

報告：北海道医療大学 講師 近藤尚也

目的：障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって教育を受ける権利は基本的人権の一つとして保障されており、すべての人は教育を受けることによって発達や変化の可能性が生まれる。オープンカレッジと通じて、知的障がい等のある人の「もっと勉強したい！」「もっと新しいことをしたい！！」という気持ちをかなえる場を提供する。

主催：オープンカレッジ実行委員会（学生が主体、教員・大学がサポート）

日時：2023年2月4日（土）15:45～17:45（15:30集合）

場所：北海道医療大学札幌サテライトキャンパス

参加者：知的障害がある方（受講生）8名（案内は約50名に郵送した）

企画運営：学生4名（一部学習サポーター兼任）

学習サポーター：学生7名（兼任合わせ10名）

※学習サポーターは、受講生にマンツーマンで配置

内容：

- ・講義「パラスポーツ概論」（45分） 講師 近藤尚也（北海道医療大学）
パラスポーツの歴史や競技についての学習。学習サポーターと相談しながら学びを深めた。
- ・レクリエーション実技「ビアポンに挑戦！！」（45分）
ピンポン玉とコップを使ったアメリカ発祥のゲームを体験し交流した。
- ・閉会式では学習サポーターがメッセージを添えた達成表を受講生に渡した。



ねんど だま 2022年度（第1回）
オープンカレッジ in 北海道医療大学のご案内

日程：2023年2月4日（土曜日）
場所：サテライトキャンパス（アスティ45）
主催：北海道医療大学オープンカレッジ実行委員会

いくつしってる？みたことある？

ボート	自転車競技(じてんしゃきょうぎ)	トライアスロン
テコンドー	シッティングバレーボール	陸上競技(りくじょうきょうぎ)(マラソン)
バドミントン	馬術(ばじゆつ)	ボッチャ
車(くるま)いすフェンシング	5人制(にんせい)サッカー	車(くるま)いすラグビー
アーチェリー	パワーリフティング	ゴールボール
射撃(しゃげき)	車(くるま)いすテニス	水泳(すいえい)
卓球(たつきゆう)	車(くるま)いすバスケケットボール	
柔道(じゆうどう)	カヌー	



参加者・家族から

- ・再開を待ちわびていた声も多く聞かれた。
- 終了時「楽しかった」「また参加した」と話していた。

コロナ禍の影響

約3年ぶりの開催となった。オープンカレッジを経験したことがあるものはいなかった。学生にとっては初めての取り組みとなるため、今回、規模を縮小し、教員サポートのもとでの実施となった。